

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.40, No.2



▶パネル展示「At That Time そのとき私たちができたこと」



▶附属図書館でのイベント



◀ The Amazing Collections of Tohoku University Library

第3回国連防災世界会議記念展示を開催

平成27年3月9日(月)から4月10日(金)まで、第3回国連防災世界会議記念展示『The Amazing Collections of Tohoku University Library』を開催しました。国宝を始めとした貴重図書を中心に、40点余りの資料を英語のキャプションも添えて展示し、好評を博して終了しました。



Contents

表紙

第3回国連防災世界会議記念展示を開催

TOPICS

- 本館が第3回国連防災世界会議の企画に参加 2
- 附属図書館新入生向けオリエンテーション 3
- などを実施
- 金属材料研究所図書室オリエンテーションを実施 3
- 新規導入データベース・DVD紹介 4

LEARNING

- 電子ブックのススメ(5) 5
- NetLibraryで授業の教科書を使う！

SERIES

- 「ゆかりの人々」災害科学国際研究所 今村文彦 所長 6
- <つながり>の一冊 6
- 『フェルマーの最終定理：ピュタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで』 比佐幸太郎

EVENTS

- EU Japan Friendship Week 記念講演会を開催 7
- 「クーデンホーフ＝カレルギーとの邂逅」

Information

- ノートPC自動貸出ロッカーによる 8
- サービスをはじめました
- 【本館】図書館カフェが4月6日にオープンしました 8
- オープンキャンパスのお知らせ 8

本館が第3回国連防災世界会議の企画に参加

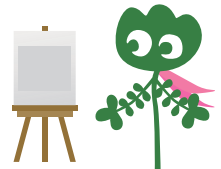
平成27年3月に、仙台市を主会場として第3回国連防災世界会議が開催され、様々なイベントが行われました。附属図書館でも、その中の“スタディツアー”に企画参加し、3月17日(火)に10カ国18名の方を迎えました。

スタディツアーでは、3種類の展示、①図書館の震災からの復旧過程をパネルにした「At That Time そのとき私たちができたこと」、②震災ライブラリーの資料を紹介した「日本の防災文化」、そして、③所蔵資料の中から逸品を選んだ「The Amazing Collections of Tohoku University Library」を案内しました。

ツアーの中では、地震当時の様子や、図書館の建物の耐震工事の時期、防災訓練の有無、震災関係資料の調べ方、防災対策など様々な質問がありました。また、一見して建物の被害の痕跡が目立たないことに驚いていたようです。「The Amazing Collections of Tohoku University Library」

の展示では、妖怪の行列を描いた『百鬼夜行』に関心が集まっていました。

案内は、英語に堪能な本学学生スタッフ2名が担当し、全て英語で行いました。学生スタッフからは「普段とは異なり、世界各国からの、そして社会人の方々に対して案内をしたのは有意義な経験だった」「日本人が日常的に行っていたり感じたりしていることについての質問があり、説明が難しい場面があった。“地震”は現象以上に文化的なものを含んでいると感じさせられた」といった感想がありました。図書館としても、ツアー参加者から質問を受ける中で、改めて日本の防災の伝統と技術の確かさを確認し、震災を経験した者としてどう記憶を伝えていくのかを考えさせられたイベントでした。



▶ 図書館入口前でツアー説明



▶ 震災ライブラリーで



▶ 貴重書の展示についての概要説明を聞く参加者



▶ 「百鬼夜行」に見入る参加者

附属図書館新入生向けオリエンテーションなどを実施

平成27年4月1日(水)～10日(金)まで(4月3日～5日を除く)、新入生向けの図書館オリエンテーションと館内ツアーを行いました。図書館の概要や利用方法のガイダンスと館内ツアーを行い、639名の参加がありました。また留学生向けの英語によるオリエンテーションと館内ツアーも行いました。こちらの参加者はオリエンテーションが45名、館内ツアーが44名でした。



▶ 図書館オリエンテーション

いずれのオリエンテーションでも、約400万冊の蔵書を持つ東北大学の図書館の概要や、平成26年10月にリニューアルした図書館の各コーナーを紹介し、大学図書館独特の多様な機能やサービスを知ってもらいました。今後の学生生活に大いに役立てていただくことを期待しています。



▶ 館内ツアー

また4月13日(月)～24(木)には28回にわたり、図書館講習会「情報探索のススメ」を開講しました。前半は「学術情報の集め方」「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「新聞記事の探し方」といった入門編：30分で分かるシリーズを、後半は中級編：文科系院生のための文献探索講習会「日本語・外国語論文の探し方」を開催しました。参加者数は入門編が395名、中級編が44名でした。情報探索を身につけることで、さらに良質なレポートや論文を作成できるようになることを期待しています。



▶ 「情報探索のススメ」入門編

金属材料研究所図書室オリエンテーションを実施

金属材料研究所では例年、図書室と教員との共催により図書室オリエンテーションを実施しています。今年は4月27日(月)に開催し、新大学院生を中心に49名の参加者がありました。

図書室職員から図書室の利用方法を案内したほか、教員から「ICDD Cards」「Alloy Phase Diagrams」「International Tables Crystallography」「Phase Equilibria」「ICSD」など、材料科学分野の研究で必須のデータベースについて解説いただきました。



新規導入データベース・DVD 紹介

平成27年から新しく導入したデータベースやDVDを紹介します。課題作成・研究・英語学習などに、どうぞご活用ください。

海外新聞データベース

図書館HP→データベース・ツールインデックス→新聞記事

Proquest Newsstand

世界中の大手出版社からの1300以上の新聞、ニュース Web サイト、ブログの全文を収録し、検索が可能です。ほとんどの新聞のバックファイルが含まれており、各紙で発行された記事やコラム、社説、死亡記事、特集にアクセスできます。

過去から現代まで、検索して記事を探したいときに大変便利です。

Library PressDisplay

過去およそ3ヶ月分の世界101か国の新聞を、発行と同時に、掲載誌面のまま見ることができます。スマートフォン・タブレット端末に学内のWiFiを通じて専用のアプリをダウンロードすると、好きなタイトルを最大90日間アプリに保存でき、いつでもどこでも読むことができます。

コレクション

手塚治虫マンガデジタルライブラリ

(日本語400巻、英語62巻、中国語166巻)

図書館HP→データベース・ツールインデックス→専門資料

手塚治虫のマンガ(日本語400巻、英語62巻、中国語166巻)が各ブラウザで閲覧可能です。

群書類従・続群書類従・続々群書類従(133冊)(同時アクセス4)

図書館HP→データベース・ツールインデックス→辞書辞典
→JapanKnowledge Lib→「本棚」のタブ

古代から近世末期まで、各分野にわたる全書目を分類収録した一大叢書です。版面画像閲覧、目次閲覧だけでなく、JapanKnowledgeから全文検索、書誌検索が可能です。

DVD

BBC英国文学ドラマシリーズ(本館視聴覚資料コーナー)

英国BBCが映像化した英国文学ドラマ12巻のシリーズです。英語字幕がついているもの(「テスト」「虚栄の市」)や、日本語・英語双方の音声がついているもの(「バスカヴィル家の犬」)があり、英語学習にも活用できます。

他にもナショナルジオグラフィックなどのDVDが増えました。講義の合間などに、視聴覚資料コーナーを利用してはいかがでしょうか？



▶Library PressDisplay タイトル選択画面



▶Library PressDisplay 誌面



▶手塚治虫マンガデジタルライブラリタイトル選択画面



▶BBC 英国文学ドラマシリーズ



電子ブックのススメ(5) NetLibraryで授業の教科書を使う！

皆さんは授業の教科書・参考書を図書館に借りて来たところ、全て貸し出されてしまっていた、という経験はありませんか？
そのような時には、このNetLibraryに望みを託してアクセスしてみましょう。授業の教科書・参考書に指定されるような基本図書(日本語も外国語の本も)が多数揃えられています。

附属図書館HPからアクセス



電子ブックサービス (学内限定)



蔵書検索システムからアクセス



どちらも
EBSCO Hostの
ページになる。



SERIES

「ゆかりの人々」 災害科学国際研究所 今村文彦 所長

シリーズ「ゆかりの人々」は、「東北大ゆかりコレクション」にちなみ、本学の卒業生、教職員など、東北大学にゆかりのある方々の著書について、ご本人に様々なエピソードを含めて、ご紹介いただくコーナーです。シリーズ12回目は、本学災害科学国際研究所所長の今村文彦教授（津波工学）です。



東日本大震災での甚大な被害を受けて、2度と同じ被害を繰り返さないために災害科学の深化と実践的防災学の体系化を目標に、翌年の2012年4月に災害科学国際研究所が発足されました。被災地での復旧・復興のための支援を行う中で、学術的な調査を精力的に実施し、多くの貴重な情報・データと教訓を得ているところであります。人類が経験のない広域で複合的な大災害ですので、全貌をまとめることは大変困難ではありますが、いくつかの成果も出ております。



「東日本大震災を分析する」
1 地震・津波のメカニズムと被害の実態、2 震災と人間・まち・記録、平川新、今村文彦、編著、明石書店、2013年

災害科学国際研究所を中心とする研究者による東日本大震災の調査報告書であります。震災前からの取組も含めて、多面的な姿を捉えようとしてきました。第1

巻では3.11以前の巨大地震への防備と実際、地震・津波の発生メカニズム、津波と洪水の被害、建物の被害、そして原発事故や交通網などに波及した広範な被害の実態と要因の分析を行いました。第2巻では、人や地域により焦点を当てました。災害時の医療現場の対応と被災者のこころと健康支援、沿岸部の津波対策と復興のまちづくりの取り組み、震災の歴史資料保存と記録、体験の継承などを報告しています。

(本館グローバル震災 ME75/0167 北青葉山分館 ME75/150)



「測地・津波（現代地球科学入門シリーズ 8）」
藤本博己、三浦哲、今村文彦（著）、共立出版、2013年

東日本大震災が起きて、巨大津波と巨大地震が改めて注目されています。巨大地震を引き起こすのはプレート運動であり地殻変動になります。プレート運動に伴う地殻変動の時空間変動を捉えることは、極めて精密な測地学的観測の高度化の賜物になります。この地殻変動が海底で発生すると津波が生じます。津波の発生および伝播機構に対して基礎から応用までいくつかの段階に分類しました。海域に加えて陸域での挙動は、今後、津波被害軽減を図るためには必須の内容です。数式は多いのですが、より正確な理解と応用を促したいと思い、まとめました。「現代地球科学入門シリーズ」の一環であり、東北大学グローバルCOE事業「変動地球惑星学の総合教育研究拠点」の一環で企画されました。

(本館2F学閲ゆかり ME51/015 北青葉山分館 ME51/22)

SERIES

〈つながり〉の一冊

『フェルマーの最終定理：ピタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで』

数学史上最大の難問に挑んだ人々

東北大学大学院理学研究科数学専攻 修士課程1年 比佐幸太郎

シリーズ〈つながり〉の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく〈リレーエッセイ〉です。



フェルマーの最終定理：ピタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで
サイモン・シン〔著〕；青木薫訳
新潮社 2000年

「私はこの命題の真に驚くべき証明をもっているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない。」これは17世紀のフランスの数学者、ピエール・ド・フェルマーがとある書物の端に書いた一文です。

フェルマーの最終定理というものを聞いたことがあるでしょうか。

「この命題」は実はフェルマーの最終定理のことで、このたった一文の為に世の数学者達はこれから300年以上に渡りその証明に苦心することになります。

フェルマーの最終定理の主張は決して難しくなく、

$$x^n + y^n = z^n \quad (n \geq 3)$$

をみたす自然数(1,2,3...)の組(x,y,z)は存在しない

というもので、中学生の頃に習った「ピタゴラスの定理」によく似ています。

一見証明も簡単そうに思えますが、実は背後にはとても難解な理論が隠れていて、あらゆる天才達がその牙城に挑み、敗れていきました。

そんな悪名高いフェルマーの最終定理が17世紀に発表されてから1995年にアンドリュー・ワイルズによって証明されるまでの数学者たちの挑戦を描いたのがこの本、『フェルマーの最終定理』です。

この本ではこの定理に立ち向かった数学者達がどのようなアプローチを行ってきたのかがわかりやすく書かれており、彼らの挑戦の多くは失敗に終わったものの、それは新たな数学の分野を開き、またそれによってフェルマーの最終定理が少しずつ解決に向かっていく様を見ることができます。

そして最後にこの定理を証明した、アンドリュー・ワイルズの人生をかけた戦いやその苦悩を感じ取ることができます。

私はこの本を中学生の頃に初めて読み、数学者達の数学に人生を捧げるほどの情熱に感銘を受けました。

私が数学に興味を持ち、数学を志したきっかけはこの本にあると言っても過言ではありません。

数学というと敬遠される方もいるかもしれませんが、この本は一般の読者向けに書かれた本なのでとても読みやすく、理解しやすいです。

是非一度読んでみて、この定理の奥深さ、数学者達の情熱に触れてみてはいかがでしょうか。

(本館2F学閲MA51/087 北青葉山分館MA51/54)



EU Japan Friendship Week 記念講演会を開催 「クーデンホーフ＝カレルギーとの邂逅」

法学研究科 戸澤英典 教授 (公共法政策専攻)

ヨーロッパ統合の唱道者としてのクーデンホーフ・カレルギー伯爵 (Richard Nikolaus Graf Coudenhove-Kalergi、以下「ク伯」) の名は、ヨーロッパよりも日本で知られている。ク伯の母親である青山光子 (ミツコ) が「EU (当初はEEC) の祖母」として幾度となくメディアに取り上げられ、ハプスブルク家の貴族に嫁いだ最初の国際結婚として大衆文化の人気の素材となってきたことがその最大の理由であろう。

他方、ヨーロッパにおいて長らくク伯は忘却されてきた。現在のEUに直接つながる統合は1950年代以降にフランス主導で推進されたものであり、祖国オーストリアが米ソ冷戦下で中立国となりEEC (欧州経済共同体) への加盟が閉ざされる中で、スイスに拠点を置いた晩年のク伯のパン・ヨーロッパ運動は傍流に追いやられることとなったからである。

その苦境の晩年、ク伯は日本を思い出したかのようであった。二歳で日本を離れたク伯が再度横浜港に上陸したのが1967年、ほぼ七十年ぶりのことであった。若き外交官時代にク伯の著作に出会い熱心に翻訳と紹介を行った鹿島守之助 (鹿島建設会長)、鳩山一郎がク伯の思想に感化されて創設した日本友愛青年同志会が招待者となり、鹿島の友人である前田幸徳NHK会長が協力した二週間の訪日は大きな反響を呼んだ。三年後の1970年には創価学会の招待で来日し、その縁で潮出版社から出版されたコミック『カレルギー伯』が筆者とク伯の最初の出会となった。

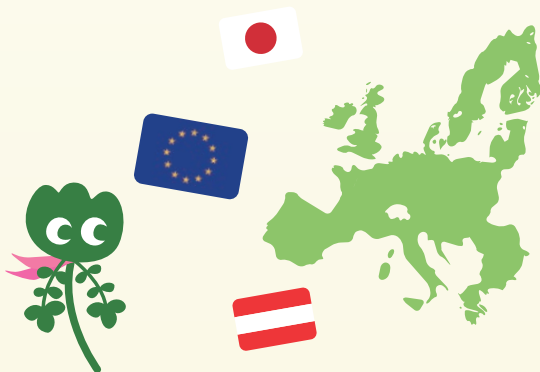
その後、ヨーロッパ研究者となり、ク伯と日本との関係を研究テーマの一つとするまでもに様々な出会いと偶然が重なった。この度、甥であるミヒャエル氏の筆になるク伯

の肖像画が小松英夫氏より本館に寄託されることになったのも、筆者にとって最新の邂逅である。この絵画を目にすることで、本学の学生にもヨーロッパと日本の歴史の興味深い一頁をひもとく機会を得てもらいたいと願うばかりである。

折しも、ギリシャと国際債権団の交渉決裂からデフォルト、さらにはEU離脱が現実味を帯びる中で、ヨーロッパ統合は岐路に立たされている。財政政策を各国の主権下に置いたまま通貨統合を断行した矛盾が表面化したわけだが、より深層には貧しい地域や人々に一国と同等の財政移転を行うほどにはヨーロッパとしての一体感が醸成されていない、という問題がある。ヨーロッパ旗の制定の功労者でもあったク伯は、シンボルや思想を重視していたが、仮に現状を目の当たりにしたらどうだろうか。経済先行の統合の限界を説くのか、それとも危機の時代にこそ新たな飛躍の可能性を見出すのか。激動する情勢と不透明な先行きを占いながら、ク伯との対話を続けている。



▶ グローバル資料室、クーデンホーフ・カレルギー伯爵の絵画の前で (左: 戸澤英典教授、右: 絵画寄託者小松英夫氏)



Information

ノートPC自動貸出ロッカーによるサービスをはじめました

平成27年4月、本館1階メインフロアにノートパソコン自動貸出返却ロッカーを導入しました。ノートパソコンの貸出は、今までもメインカウンターで行っていましたが、このロッカーの導入により、カウンターを介さず、学生証をロッカーのカードリーダーに読み込ませるだけで、セルフでノートパソコンの貸出／返却を行うことができます。

ノートパソコンは、OSがWindows7またはWindows8、サイズが13～17型の計38台。もちろん、すべて無線LAN対応です。ネットワーク接続は、TAINSまたはeduroamとなります。

5月末日で24件を超える利用があり、多くの方に活用いただいています。皆さんからは、「好きな席で使えるのがいい」「セルフなので使いやすい」「長時間使えるのがいい」といった声がありました。

日々の学習、研究、グループワークなどに、ぜひご利用ください。



【利用について】

対象者	本学の学生・教職員のみ	利用時間	開館から当日の21時30分まで
利用場所	館内グローバル資料室（エントランス、カフェコーナーを除く）		

【本館】図書館カフェが4月6日にオープンしました



平成27年4月、図書館本館内に『シアトルズベストコーヒー』がオープンしました。同店は宮城県に初めての出店となり、世界中に700店舗展開しています。

営業時間 8時30分から18時30分まで（当分の間、土・日・祝日は定休）

コーヒーはもちろん軽食も販売しておりますので、どうぞご利用下さい。



オープンキャンパスのお知らせ

会場 本館（川内キャンパス）、医学分館（星陵キャンパス）、北青葉山分館（青葉山北キャンパス）、工学分館（青葉山東キャンパス）、農学分館（雨宮キャンパス）

詳しくはウェブサイト (<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>) をご覧ください。

プログラム》

1 <探検>図書館オリエンテーリング **本館 9:00～17:00**

館内マップを見て、各自で館内を回り、当館キャラクター“はぎのすけ”スタンプをあつめていただきます。参加者には、記念品を進呈いたします。

2 留学生と話してみよう！ **本館メインフロア奥（フレキシブルワークエリア） 13:00～（予定）**

図書館には、図書館の使い方などを案内する「留学生コンシェルジュ」がいます。そのコンシェルジュの母国や研究などについて、話をしてみましょう。

3 ビデオ上映 **本館メインフロア奥（フレキシブルワークエリア） 9:00～16:00**

Eテレ「テストの花道」、東北大学案内DVD

4 図書館資料等の展示（以下タイトルは仮称）

- (1) 本館「漱石 in ロンドンーイギリス留学中の夏目漱石ー」
- (2) 医学分館「100周年記念展示『解体新書』が生まれた頃ー驚きの近代医学前史ー」
- (3) 北青葉山分館「理薬関係ミニ展示」
- (4) 工学分館「東北大学工学系の歴史」ほか
- (5) 農学分館「雨宮キャンパス 今・昔・そして未来 ミニ展示」



はぎのすけのつぶやき

「東北大学附属図書館イメージキャラクターのはぎのすけです。皆さんの快適な学習環境をおたすけいたします。どうぞよろしくおねがいいたします。」



Tohoku Univ. Library
@hagi_no_suke

東北大学附属図書館のツイッター公式アカウントです。東北大学生の学習と生活のためにつぶやきます。
http://twilog.org/hagi_no_suke
Sendai, Miyagi, JAPAN